

諏訪蚕糸野球部(現長野県岡谷工業高等学校野球部)関連資料※の経過について

※御子柴三郎資料とも言う

- 平成25年度県立歴史館夏季企画展「信州の野球史」(長野県立博物館発行)
 - ・全国中等学校野球大会 昭和5年夏諏訪蚕糸 準優勝
 - ・岡谷の蚕糸業と野球
 - ・諏訪蚕糸野球部長 御子柴三郎が残した資料 が記事として掲載
 - ・信州の野球史概説-戦前編-(P69)での評価

◆野球と蚕糸業

さて、明治期から昭和初期にかけて日本経済を支えてきた蚕糸業、特にその中心となった県内の蚕糸業との関連はどのようなものだったのでしょうか。(中略)

松本商業学校では、大正10年頃から片倉一族による学校全体の整備計画の中でグラウンド整備が進められます。また、諏訪蚕糸学校では、片倉をはじめとする蚕糸業者の後援により、昭和4年クリスマスから昭和5年の正月にかけて台湾遠征を行いました。(中略)この遠征時に着用したユニフォームは生糸製でした。蚕糸王国長野県岡谷を象徴する出来事であったと思います。(後略)

- 令和3年7月15日～11月14日

岡谷蚕糸博物館「岡工110周年記念典-製糸業と諏訪蚕糸野球」開催

- 令和4年2月 一般社団法人岡谷工業高校同窓会から、書簡類約2600点を本市に寄贈
- 令和5年3月 昭和5年の夏の甲子園大会での準優勝盾など約150点を岡谷市に寄贈
一般社団法人岡谷工業高校同窓会理事長小松壮氏から本市へ「趣旨書」長野県岡谷工業高等学校野球部資料が提出される

「主な内容」

1)寄贈の理由

- (一)100年以上前の資料もあり劣化が進んでいる
- (二)高校再編の動きの中、他高校と合併した場合に資料散逸の恐れがある
- (三)特定管理者がいない

2)岡谷市への寄贈理由

- (一)書簡等を寄贈した経緯から、ボールなども岡谷市への寄贈が望ましい
- (二)資料の多くが製糸業を中心とした実業家らで組織した野球部後援会に
関係している
- (三)蚕糸博物館保存の場合「岡谷工業高校野球資料」といった形での管理が期

待できる

(四)学校に近く、万一、同窓会等での貸し出しを希望する場合には、即応が可能

3) 寄贈を検討している資料

(一)寄贈品一覧を添付

(二)台湾遠征時の嘉義農林、台北一中との試合球は甲子園歴史館へ寄託、展示中

4) 寄贈に当たっての要望

(一)関係機関(長野県立歴史館、甲子園歴史館、野球殿堂博物館等)から中等学校野球、大学野球の歴史が分かる貴重な資料であり、文化財的価値が高い—との評価をいただいております、寄贈に当たって同窓会としては「文化財指定」を要望する。

●令和5年5月25日

令和5年度第1回文化財保護審議会

「《趣旨書》長野県岡谷工業高等学校野球部資料の岡谷市への寄贈」を説明。

(主な質疑事項)

- ・文化財として考えられるかどうか。
- ・野球関係で自治体の指定となっているものはあるか。
- ・台湾まで遠征するのは珍しい。
- ・膨大な資料であり指定に関し、どこで線引きをするか難しい。整理も困難。
- ・岡工が指定になるなら、南校もという意見が出るかもしれない。

●令和6年7月11日

長野県立歴史館学芸部考古資料課 西山文化財指導主事(元考古資料課長)

本市宛 諏訪蚕糸御子柴三郎資料について(抄)

御子柴資料につきましては、野球のみならず、当時の時代背景が反映され、諏訪地域の蚕糸業(片倉はじめ)との関連を考えさせられる資料でもあります。当時の蚕糸業の繁栄ぶりがなければ諏訪蚕糸の活躍はなかったといっても過言ではありません。

この野球関連資料が指定文化財となった場合、全国的に話題になるかと思えます。文化財を見直す資料となるかも知れません。ぜひ市指定文化財に、そしてさらには早々に県指定文化財にしていただければと思います。その上については、国の判断になるとは思いますが、少なくとも長野県の宝となる資料ではないかと思えます。

この資料はただ単に野球資料というわけではありません。当時の時代背景を映し出している諏訪地域の宝だと思えます。ぜひご検討のほどよろしく願いいたします。

●令和6年10月23日

令和6年度第2回文化財保護審議会

一般社団法人岡谷工業高等学校同窓会 理事・幹事長 宮澤純氏から、「岡谷工業高

校シルク関連寄贈品について」として本資料について説明、文化財保護審議会委員と質疑応答。

(宮澤氏の主な説明事項)

- ・岡谷市に同窓会が所蔵してある資料 2,600 点を寄贈した。
- ・多くのものは書簡。
- ・寄贈の趣旨は、製糸に関わる資料が非常に多いこと。学校統合の動きもあり・資料が劣化していることから、管理体制が整っている地元を選択。
- ・一部は、甲子園博物館や東京ドーム内野球殿堂博物館で展示。
- ・平成25年に長野県立博物館で企画展。
- ・本校は、平野村立平野養蚕学校、諏訪蚕糸、岡谷工業学校となっている。
- ・書簡は、御子柴三郎(諏訪蚕糸に大正9年に赴任、以降岡谷工業高校に至り、32年間勤務)氏によるものが中心。
- ・野球部は、製糸会社、醸造会社「高天」「神渡」からの資金提供を受け強豪に。
- ・「SUWA」ユニフォームは現存していないが、シルクを織り込んだものだった。
- ・資金が潤沢であり、昭和4年12月25日から昭和5年1月18日まで台湾遠征を行っていた。徳島や名古屋、前橋、京都などにも遠征。
- ・野球殿堂入りした信州人である櫻井弥一郎、宮原清、市岡忠男の書簡も残っている。
- ・岡谷球場も、岡谷体協史にあるように、製糸家の資金拠出で造られた。
- ・製糸会社にも野球チームがあった。
- ・戦前の野球資料は戦火で失われている。
- ・昭和4年夏、5年春、夏と甲子園に三期連続出場。
- ・願わくば文化財指定していただきたい。例えば、諏訪蚕糸野球の全盛期のものとして昭和3年～6年と絞っていただいても良いと考えている。

(委員意見)

- ・多くの資料があるため、指定には一定の考え方による整理が必要。
- ・民俗文化財の範疇に入れざるをえないとおもうが、厳密に考えれば文化財保護法上の民俗文化財の範疇とはならないと思うので、ストーリーが必要。
- ・ただし、文化財の分類もある程度は寛大にはなっている。

●令和7年5月27日

令和7年度第1回文化財保護審議会

「岡谷工業高校シルク関連寄贈品の状況について」

- ・諏訪蚕糸学校と同時期に活躍した他県の野球強豪校に関する野球資料の文化財指定の例はない。
- ・製糸業で隆盛を誇った本市の産業界が、平野村が設立した諏訪蚕糸学校の野球活動を支援することにより、昭和4年、5年の全国大会に出場し、昭和5年は準優勝するなどの黄金時代を築いた。本資料は当時の時代背景や住民生活を象徴するものと言えるため、指定する方向で代表的な資料を選び出し、文化財としてふさわしいものを指

定していく方向性とする。

●令和7年6月～11月

- ・寄贈品を所蔵する蚕糸博物館と現物を確認するとともに、同館と協議を行い指定候補の絞り込み
- ・文化財保護審議会 宮坂会長と指定候補について協議

●令和8年1月(予定)

- ・令和7年度第2回文化財保護審議会 文化財指定に関する諮問

●令和8年3月(予定)

- ・諮問に対する答申